

そのアイデア、まちづくりを生かしてみませんか

協働事業提案制度

「わくわくプロジェクト」

◆わくわくプロジェクトとは

昨年度から始まった「わくわくプロジェクト」は、NPOやボランティアなどの市民活動団体の皆さんのアイデアをまちづくりに生かして、市と協働で事業に取り組む協働事業提案制度です。昨年度は6事業、今年度は7事業を実施しています。

◆事業の審査

提案された事業は、公募した市民や市民活動団体の代表などで構成する協働推進委員会が厳正に審査を行います。書類審査の

ほか、公開でのプレゼンテーションを実施します。

審査のポイントは次の8項目。市民活動団体と市とが協働することで相乗効果が期待できる、モデル的、先駆的な内容かどうかを確認していきます。

- 先見性・獨創性
- ニーズの理解
- 事業の将来性
- 役割分担
- 事業の公共性
- 協働の必要度
- 手段の効率性
- 実現可能性

新たな提案をお持ちしています

採択となった協働事業には、対象経費の90パーセント以内(上限50万円)を補助金として交付します。「わくわくプロジェクト」で、市民活動のさらなるステップアップにつなげませんか。皆さんからのご提案をお待ちしています。

応募要件／NPO法人、ボランティア団体、企業(非営利の社会貢献活動を行う場合)、地域コミュニティ団体など、市民活動を行う団体

提案受付／12月14日(水)～平成24年1月13日(金)

提案方法／所定の協働事業提案書を地域振興課へ

公開プレゼンテーション実施日／平成24年2月実施予定

※詳しくは、募集要項をご確認ください。募集要項は、市ホームページ、地域振興課、内原支所、赤塚・常澄出張所、各市民センター、内原中央公民館で配布しています。

問合せ／地域振興課(☎232-9105)



平成22年度に実施したプレゼンの様子

森林公園の四季

紅葉に彩られた森

秋の紅葉も一段と深くなり始めました。ヤマザクラはすでに葉を落とし、黄色味を帯びたクヌギやコナラ、赤や橙色など変化にとんだ色合いのモミジ類、そして、アカシデの何とも言えない淡い紅葉の中を散策するのは気持ちの良いものです。

森林公園内には、イロハカエデやエンコウカエデなどが点在しています。紅葉谷のみみじの道や森の交流センター前の子どもの谷での紅葉狩りはお勧めです。

10月初めまで鳴いていたツクツクボウシの声は消え、草原から飛び出すバッタの姿も急に少なくなってきました。



キチョウ

姿を消してゆくバッタやキリギリス、コオロギに代わり、秋遅くに成虫となったツチイナゴやクビキリギリスは、その姿で冬を越すため盛んに活動しています。

成虫で越冬する蝶は、キタテハやルリタテハ、キチョウなど9種

秋編

場所・問合せ／森林公園森の交流センター (☎252-7500)

類あり、冬の準備のため花や熟した果物などに集まっている姿を目にすることができます。

ハギの仲間でも多く見られるヤマハギの花も終わり、円形のさやの中には平らなまめができ、鳥たちにとっては冬を迎えるために大切な食料となっているようです。

作ってみませんか

マツボックリを使って、かわいいフクロウを作ります。

期日／11月26日(土)・27日(日)

時間／午前10時30分～正午、午後1時30分～3時(受付は各回の終了30分前まで)

場所／森林公園森の交流センター

定員／各40名(定員になり次第締切り)

料金／無料

申込み／当日受付